

【相談内容】

No4. PC箱桁橋の支間中央部の変状に伴う対応方針について

○支間中央部変状（ゲルバー桁中央ヒンジ部における垂れ下がり）に伴う対応（大型車通行規制による活荷重低減、応急対応後の補修補強方法）について

<状況>

○PCポステン有ヒンジ3径間箱桁橋（架設年次：昭和54年、橋長95m、全幅員8.75m）

○昭和61年から平成14年までに中央ヒンジ部の垂れ下がりが30cm程度まで進行したが、その後の明確な進行は見られない。

○支間中央部における主桁の垂れ下がりが大きいことから復元設計による現橋耐荷性能評価を行ったところ、設計活荷重（TL20+群衆荷重）に対して耐荷力不足

【助言内容】

○大型車迂回による活荷重低減は良いと思われるが、道路管理者として対応方針（要求性能、想定する耐用年数等）を明確にする必要がある。

○支間中央部の垂れ下がり及び橋脚の沈下について常時観測が必要と思われる。観測の仕方については、コストも考慮して道路管理者が判断するのがよい。

○補修補強の調査設計全般において「事実および事実から推定される事項は何か」「未解明の事項は何か」の仕分けが不明確であるため、今一度整理した方がよい。

○補修後に同様の損傷等が発生することがないよう、原因を正確に究明してから、補修補強設計に繋がった方がよい。

○上記を含め、対外的に説明できる根拠を揃えた方がよい。